

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表： R8年 2月 6人回答/6人中 無回答あり

事業所名 郡上市北部子ども発達支援センターたんぼぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に応じてホール、指導室の使い分けをしている。</li> <li>利用人数が多い時には、前後で交代しながら活動している。</li> <li>日にちや時間帯により、個室が足りなかったり、ホールが放デイ利用時には狭く感じることがある。</li> <li>年度途中入所児が増えてくるため、個室スペースが足りない時間帯がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用定員に合った指導室の確保に努める。</li> <li>学年や人数に応じて活動内容や使用する部屋の工夫をしていく。</li> </ul>
	2	職員の配置数は適切であるか	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の休みの時は、他の職員が対応をしている。</li> <li>通所児が増えてくる、長期休みの放課後サービス利用児が一時的に多くなるなどして、適切な職員数が足りなくなっている。</li> <li>事務兼療育指導と両方の仕事を回していかなければならない現状で、療育専門指導者の人員を増やすか、事務処理の業務軽減が事務専門職員を配置してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務分掌を特定の人に固定化せず(偏らせず)、必要に応じて見直す。</li> <li>必要に応じて自分の事務分掌以外にも協力し合いながら業務を進める。</li> </ul>
	3	療育指導室は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>部屋には未満児や園児にも分かりやすいように絵カードを貼ったり、個別に名前シールを作ることで靴や鞆などの所持品の片付けが身につくようにしている。玄関も段差を低くしたり、バリアフリーの箇所も作ってある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児の特性に配慮しながら環境を整えていく。</li> <li>わかりやすい環境設定を継続していくために、定期的に点検を行う。</li> </ul>
	4	療育指導室は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間になっているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生にとってはホールであっても部屋が狭く、運動がしにくい場合がある。</li> <li>指導後、使用した玩具やテーブル等、除菌をしている。</li> <li>個々に合わせた教材、指導室環境をその都度用意している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全や衛生面での対策は引き続きおこなう。</li> <li>子どもの状態や特性、年齢等を見極めながら活動内容を工夫していく。</li> </ul>
業務改善	5	必要に応じて子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ時間帯に重なる場合は、前半、後半で交代して使用している。</li> <li>慣れた場所が落ち着く場合は同じ部屋を使用できるようにしている。</li> <li>子どもの人数が多いときなどは、個室の指導室の利用時間を半々にするなどして工夫して使用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの状態や特性を見極めながらグループやペアで行うなどの工夫をしていく。</li> <li>過敏さのある児に対しては現状のように指導時間に少人数、または単独で指導をおこなえるよう配慮する。</li> </ul>
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業ごとに振り返りをしている。</li> <li>事前に指導内容を確認。反省点は次回、見直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての事業にすべての職員が関わっているわけではなく、わかりにくいので、報告をし意識できるようにしていく。</li> <li>職員の参画意識を高めていく。</li> </ul>
	7	保護者等向け評価表により保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の意見を参考に改善すべき点は、職員全体で検討、改善に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙面、ホームページ上で評価結果を公表していく。</li> <li>ご意見があれば、スピード感をもって対応していく。</li> </ul>
	8	職員の意見等を把握する機会等を設けており、その内容を業務改善につなげているか	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容的に簡単に業務改善ができないケースも多い。</li> <li>必要に応じて朝礼や指導後に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任者会・職員会等で意見を伝えられる場の確保をしているが、日頃から気づいた点を伝えあい、よりよい改善につなげている。</li> </ul>
	9	事業所職員向け自己評価表及び保護者等向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	5	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>市のホームページ上で公表を行う。</li> </ul>
	10	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去に職員として勤めていた方に第三者委員になっていただき、意見をもらおうとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三者評価体制の整備を検討する。</li> <li>発達支援センターの業務や療育について知識や経験のある人に依頼していく。</li> </ul>
	11	職員の資質の向上を図るために研修の機会が確保されているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修案内等の情報に触れられる機会が多く、とても恵まれている。</li> <li>平日開催の研修については、職員間で調整をしながら参加できている。</li> <li>自己研鑽を含め必要な研修に参加しているが、研修が後期に集中したり人数制限があったりして行けないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験や職階に応じた外部研修の参加や研修参加回数をなるべく平等にした研修参加を推進する。</li> <li>研修内容は職員間で共有し資質向上に努める。</li> </ul>

適切な支援の提供	12	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで通所支援計画を作成しているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧に保護者聞き取り、作成等をおこなっている。</li> <li>・作成に要する時間や比重が大きくなるため、様式や作成方法の見直しや改善はおこなえるとよい。</li> <li>・傾聴に心がけている。保護者と課題を共有し、取り組めそうな支援計画の作成を心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児の状態像を的確に把握するように努め、関係者と連携して支援計画に反映させる。</li> <li>・様式や作成方法の見直し、改善は適宜おこなっていく。</li> </ul>
	13	通所支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成時に担当に評価をお願いし、現状の様子や課題を聞き相談しながら支援計画を作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児の状態とそれに対する課題を児発管と担当者間で正確に把握できるよう努めていく。</li> <li>・児の成長発達を鑑み、最善の支援方法や適切な関りができるよう職員間で共通理解を図る。</li> </ul>
	14	子どもの適応行動の状況を標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや日々の行動観察を含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認できているか	6	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達検査を基本に必要な児については感覚プロファイル、TASPなどを用いた検査により把握する。</li> </ul>
	15	通所支援計画には、児童発達支援及び放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援、放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のわらい及び支援内容も踏まえながら子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源について把握しておく。</li> <li>・引き続き、関係機関との情報共有と相互理解による途切れのない支援に努める。</li> </ul>
	16	通所支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	6	0	グループ活動時の支援方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児のニーズに合わせた計画を作成する。</li> </ul>
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな年代や経験を要した職員が集まっているため、チーム立案がしやすい。</li> <li>・ベテラン支援員を中心に、季節に沿った活動を取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動では、指導員の役割分担を大切にしていく。</li> <li>・指導員や児発管と指導内容について交流しながらに進める。</li> </ul>
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児の状態に合わせた適切な活動となるよう職員全員で指導方法や関りについて共有している。</li> <li>・理学療法士相談等でアドバイスされた活動を取り入れている。</li> <li>・季節に合わせた活動を取り入れている。</li> </ul>
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる通所支援計画を作成し、支援が行われているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児や小学生は他児と協力したり、順番を守るなど、ペア、少集団を意識した計画を作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児のニーズに合わせた計画を作成し、療育を実施している。</li> </ul>
	20	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	6	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼にて打ち合わせを行っている。予定と共に配慮事項についても共有をしている</li> </ul>

関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	6	0	・時間が確保や伝達手段を工夫しながら共有しておく必要がある。 ・児や保護者について気になる様子があった場合には、児発管を中心に職員で共有し、対応について考えることができる。
	22	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	0	・指導の記録は、療育後の30分の時間を使って記録と懇談を行うようにしていく。 ・支援について迷い等がある場合は、職員間や児発管と共有し、次回の指導に生かせるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、通所支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	6	0	・相談支援専門員と一緒にモニタリングを行うことで、対象児に関するより多くの情報を得られ、また、見直しの是非も判断しやすい。
	24	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	6	0	・子どもの状態に合わせて、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性、認知・行動、健康・生活、運動・感覚から必要な活動を組み合わせながら行っている。
	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	0	・児発管、療育担当者等が参画している。
	26	母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	6	0	・顔の見える関係が構築されており、互いに連絡や連携をとりやすいと感じる。 ・親子あそびの教室、乳幼児健診などで保健師と連携、児の把握や情報交換をおこなっている。
	27	並行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。またその際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6	0	・発達支援会議や引き継ぎ会などが定着し、関係機関との情報共有がしやすいと感じる。 ・通所児に対して月に一回、保育所等訪問支援と年に2回、支援会議をおこなっている。
	28	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6	0	相談支援主催で医療機関、学校、保護者、発達支援センターで担当者会をおこなっている。
	29	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	6	0	・前例(モデルケース)があることが職員の自信になっている。 ・実際にケースに関わらせてもらうことで、全体の流れの把握ができ、必要時に動きがとりやすくなっているのではないかと感じる。 ・医療的ケア児コーディネーターのスキルアップ研修にも参加していけるとよい。
	30	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	0	・みやこ園との連携をはかたり、助言や研修を受けることもできている。
	31	自立支援協議会児童部会や地域の子ども・子育て支援会議等へ積極的に参加しているか	6	0	・自立支援協議会児童部会においては、地域の課題を把握し、関係機関と情報共有や連携ができている。 ・子ども子育て支援会議に関しては、必要に応じて参加をしている。
	32	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	0	・指導後や送迎時に指導の様子や情報交換をおこなっている。
	33	保護者の対応力向上を図る観点から保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	5	1	・保護者にも協力いただき、今年度ペアレントトレーニングを実施できた。 ・来年度以降も、いろいろな職員がペアトレ研修に参加できるとよい。 ・今年度職員が研修に参加できたが、自事業所で行っていくには、関わる職員の数や時間が足りないと思われる。また、ペアレントトレーニングの意義が今ひとつ見いだせなかった。保護者が仕事等の都合をつけて複数回参加されることにも難しさがあるように思う。
	34	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	0	・丁寧にわかりやすく説明するように努めている。
	35	通所支援計画の作成をする際には、子どもや保護者の意思尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか	6	0	・モニタリングで児の現状を共通理解し今後の支援目標について内容を確認している。
	36	児童発達支援、放課後等デイサービスガイドラインに基づき作成された「通所支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から通所支援計画の同意を得ているか	6	0	・作成後に内容を説明し確認をおこなっている。

保護者への説明責任等	37	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	0	・モニタリングや発達相談、必要時におこなっている。 ・モニタリング時を基本として、その他随時相談に対応できる体制を整えている。	
	38	保護者会の活動の支援や保護者同士の連携を支援しているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	3	3	・保護者会について、参加の仕方や内容等のアンケートを実施できた。 ・時代や保護者のニーズに合わせた会の持ち方を考えていきたいと思っている。 ・保護者はなかなか集まるのが難しいと思われる。内容を厳選して行う。きょうだい同士の交流は難しいが、療育についてきたときは可能な範囲で受け入れ本人と一緒に活動するなど、楽しく活動できる場所だと知ってもらえたら良いと思う。 ・年度初めに保護者に向けてアンケートを実施、保護者の希望や利用できる人が少なかったため、今年度は保護者会が行えていない。 ・保護者会について、参加の仕方や内容等のアンケートを実施できた。	・保護者会を行う機会はなかったが、今後も保護者のニーズに合わせ、必要であれば保護者会の機会を設ける。 ・きょうだい同士の交流機会は設けてはいないが、対象児との療育を一緒に行うことで、発達支援センターでの活動やきょうだいの様子を知る機会にできればよい。
	39	子どもや保護者からの相談や申し入れ等、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	0	・2人体制で対応するようにしている。	・モニタリング時を基本として、その他随時相談に対応できる体制を整えている。
	40	定期的に通信等を発行し、活動概要や研修報告、行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6	0	・毎月の通信にて活動概要や研修報告、行事予定、連絡体制等を発信している。 ・緊急の連絡はすぐるにて行っている。	

非常時等の対応	41	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6	0		・注意しながら取り扱っているところではあるが、その都度取り扱いについて確認する機会が必要である。
	42	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	0		・言語以外にも身振り手振り、写真、絵カード等も用いながらコミュニケーションのとり方を工夫していく。
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか	4	2	・事業所が地域住民を招待する行事の開催はないが、主催や共催の研修会や協議会に地域の方(専門職)を招く機会がある。	・地域を把握し、できる活動があれば一緒に行うことを検討していく。
	44	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施しているか	6	0	・平日頃から職員間で防災や感染症について話をする機会をもつことができている。	・職員会等でマニュアルを確認する。 ・通所開始時には保護者にも提示し、周知する。 ・災害を想定した避難訓練をおこなっている。
	45	業務継続計画を策定するとともに非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5	1	・業務継続計画について自分自身が把握できていない。 ・避難訓練等は定期的におこなっている。	・業務継続計画は策定済み。 ・避難訓練は定期的におこなっている。
	46	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	6	0	・その他、食物アレルギーの把握について、保護者への聞き取りと一覧表の作成をおこなっている。	・服薬については、原則発達支援センターではおこなわない。 ・個別のアレルギー源について一覧表を作成し、確認している。 ・てんかん発作時の対応について研修をおこなうとよい。
	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか	4	2	・医師の指示書の提出は求めているが、保護者への聞き取りをおこなっている。 ・調理室にアレルギー対象者のアレルギー食品を表にして掲示している。	・個別のアレルギー源について一覧表を作成し、確認している。
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分にされた中で支援が行われているか	5	1	・安全計画について自分自身が把握できていない。 ・毎月の職員間にてヒヤリハット事例をあげるなど安全管理に努めている。	・安全計画の周知が必要である。 ・ヒヤリハット事例を共有し、安全管理に努めている。
	49	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有されているか	5	1	・事例集の作成はおこなっていないが、その都度職員間での共有をおこなっている。 ・危険を感じた時や、職員会で毎月おこなっている。	・ヒヤリハット事例集の作成は令和8年度の課題としていく。 ・引き続き、職員会でヒヤリハットについて報告、確認、共有していく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等の連携が図れるよう安全計画に基づく取り組み内容について家族等へ周知しているか	5	1		・第3緊急連絡先の把握、個別の避難方法について職員間では共有している。 ・安全計画の周知をおこなっていく。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	0	・毎年、外部講師を招いて、虐待(人権擁護)に関する研修をおこなっている。 ・毎月、虐待防止チェックを各自がおこなっている。 ・毎月、虐待防止チェックリストで確認をおこなっている。	・引き続きチェックリストを活用し、虐待防止の意識付けを行なう。 ・年1回、権利擁護についての研修会を開催、受講する。
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で通所支援計画に記載しているか	5	1	・現在は対象者がいないが、今後必要な場合には一連の流れをおこなう必要があると把握している。	・現在、対象者はいないが、どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で通所支援計画に記載するという一連の流れを職員が理解しておく必要がある。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。